

## CLOSE UP

## 横井恵子さん

ネーミングクリエイター

NPO法人XYZ(クロスワイズ) 理事長



数々のブランド名の生みの親  
言葉の力による新たな活動に挑む

## 東日本大震災で芽生えた思い

1月16日にKDDI財団が寄贈したカンボジアの「Khy Lek (キレック) KDDIスクール」開校式。新しい学校への期待を胸に集まった多くの子どもたちに、クメール語と英語を併記した絵本『ひとりひとりが大切な友だち』を手渡ししていたのが、日本を代表するネーミングクリエイター、横井恵子さんだ。

横井さんは、「リソな (RESONA) 銀行」や「あいおい (IOI) 損保」「ビッグロブ (BIGLOBE)」「アクトビラ (acTVila)」「アラウーノ (A・La・Uno)」「ゼクシオ (XXIO)」,そして「au」や「UQ」ブランド等、数々のブランド名開発に携わってきた。

そして2012年3月に、NPO法人XYZ(クロスワイズ)を設立し、言葉の力を通じた社会貢献を目指している。そのきっかけとなったのは、東日本大震災だった。

「大震災の後、誰もが何か、役に立ちたいと思われたと思います。私も何か、自分ができたいことをしたいと思いました。言葉と正面から向き合って仕事をしてきてちょうど30年でしたので、これを機に、私なりに世の中に役立つことってあるんじゃないかと思ったんです。言葉の力って、それによって人のからだを暖めたり、空腹を満たしたりはできないものなんですけど、次の行動を起こせるだけのパワーはあるんじゃないか。それを私なりにやってみようと思ったんですね」

## 「HEART」という言葉からのメッセージ

日本では「絆」という言葉が広まっていたが、世界中から寄せられた数々の支援に対し、横井さんの心に強く残った言葉は「HEART (ハート)」だった。そしてこの言葉には何か大切なメッセージが託されている、と感じたという。

「職業柄、言葉をいろいろな角度からみるのが習慣になっているのですが、まず『HEART』と『HEART』をつなげて描いてみました。するとその真ん中に『EARTH』という文字があることに気づいたのです。ハートハートのつながりによって地球は支えられているのだと教えられた気がしました。次に『HEART』の5文字をくると円状に描いてみたのですが、これをEから読み始めると何と『EARTH』になるのです。これには自分でもびっくりしました。ああ、地球はハートで出来ているんだ、と。さらに、『HEART』と『EARTH』の文字を重ねてみると、EARTHの部分は共通で両側にHがついた『HEARTH』という言葉になります。これは家庭や暖炉のことで、愛の象徴を意味しています。すなわち、心を重ねると地球は愛に満ちた場所になるのだ、という解釈が成り立つのです。

“単なる言葉遊び”と言ってしまえばそれまでですが、私は、『HEART』の言葉からのこれらの気づきを、世界の国々からの支援に対しての感謝メッセージとして伝えていこう、と思ったのです」

## elephantの中にもantがいる

しかし、実際にこのメッセージをどう伝えていくかは、簡単な話ではなかった。あれこれ考え悩み、多くの人に相談をする中、より幅広い人たちに理解してもらえるようにと、絵本を書くことを思いつく。

そして、子供たちにもわかりやすく伝えていくために、動物を主人公にストーリーを書き始めた。

「ヒントになったのは大きな存在の象徴であるelephant(象)のスペルの中に、小さい存在の象徴であるant(あり)の文字が入っている」ということでした」

これもまた言葉からの発見である。

「世界にはいろんな人種の人っていて、体格も暮らし方も違うけれど、それぞれがかけがえのない唯一無二の存在である。そして、異なる個性を持ったお互いが受け入れ合って“ハートとハートを繋げて生きていく”ことが大切である、という想いを絵本に込めたいと考えました」

### 広がる絵本配布の輪

こうして、アリが、いろいろな動物と出会って自分の良さに気づかされ、みんな地球で一緒に生きている大切な仲間なのだ、と気づくというストーリーが出来上がった。絵をつけてくれる人をさがして絵本の試作品を作り、世界中に届ける活動を支援してくれる人をさがしたところ、協力してくれる人たちが次々と現われたのである。

そして、ソニーが南アフリカ、日産自動車はメキシコ、日立製作所がベトナム、損保ジャパンがミャンマーの、それぞれ学校や図書館への寄贈に協力してくれることになった。KDDIも、横井さんの活動に賛同して、カンボジアの学校への寄贈に協力することにしたのである。寄贈する絵本は、それぞれ、英語と相手国の言語を併記する形で作られ、南アフリカ向けは何と12言語に訳された。また、日本の子どもたちへは、ベネッセの支援で、日本語と英語の併記版が国内すべての公立図書館に贈られることとなった。

### 偶然からネーミングの世界へ

横井さんは、大学生時代に、NHKスペイン語講座で講師を務めていた教授の推薦でオーディションを受け、NHK教育テレビ「若い広場」の司会役に抜擢。卒業後もテレビのニュースキャスターの仕事が続いていた。その後、旅行で出かけたメキシコで出会った夫と結婚。仕事をやめて子育てをしていたときに、ネーミングの仕事に運命的に出会うことになる。

「当時、住んでいた部屋の前に高い建物が建って日が入らなくなりました。そこで他に部屋を借りて自分の部屋を貸すことにしたのですが、その部屋を見に来られた方がネーミングの仕事に関係している方で、その方から『是非仕事を手伝って欲しい』と言われて。家に居ながら子育てをしながらできる仕事なら、ということでお手伝いする形で始めました」

学生時代から語学を専門にしていた横井さん。始めはネーミングの素材となるキーワード作りがメインの仕事であったが、やがてネーミングの考案の楽しさを覚え、その後自らの会社、ZYXYZ (ジザイズ) を設立して独立。先述のようなヒット作を次々と生みだし、今や、ブランド名開発の第一人者となった。

### 「言葉の力」を次のステージへ

横井さんの仕事のスタイルは、「しつこく考えて考えて考え抜く」というもの。名前を構成するひとつひとつの要素を、アルファベットや漢字で書いたときの意味や音の響きなど、さまざまな角度から追求していく。聞き取りやすく、覚えやすく、発音しやすいことも求められる上に、視覚的な美しさやインパクトも重要となる。言葉に新たな意味を見つけたり、別の解釈を与えたりしながら、最終的に、たったひとつのオリジナリティ溢れる名前として完成させていくのが、横井さんの仕事のやりかただ。

そして、横井さんの付けた名前には、明確なネーミングの根拠がある。

言葉による社会貢献を目指して設立したXYZ (クロスワイズ) という名前は、本業のZYXYZ (ジザイズ) で培った経験を活かし、多くの人の力をクロス (X) して、三位一体 (Y) で、究極 (Z) を目指すという意味から付けられたそうだ。

クロスワイズは、絵本や歌などを通じてHEARTHEARTの精神を世界に届ける「Word to the World」、協賛企業とのコラボレーションによる社会貢献・支援活動によって共に地球の未来をささえる「ともにtomorrow」、言葉から学びを实践していく「MANAVIE (マナビエ)」の3つを柱に活動を推進している。

この「HEARTHEARTの精神」を世界に届ける活動は、日本とASEANの交流40周年となる今年、「日・ASEAN友好協力40周年記念事業」及び「日越友好年事業」として外務省より認定を受けている。

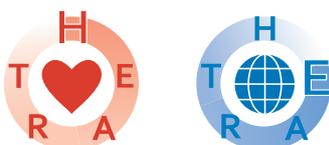
ほかにも、JAXA (宇宙航空研究開発機構) の賛同で、星出彰彦宇宙飛行士が国際宇宙ステーションから「HEARTHEART」に託したメッセージを伝えてくれたりと、クロスワイズの活動は広がり続けている。

「本当に不思議に思う程に、多くの人のご縁に恵まれて、皆様のお力が私の背中を押してくれていると実感しています」という横井さん。

「言葉は人々の視点を変え、行動に駆り立てるだけの強い力があることを実証していきたい」という横井さんの新たな挑戦は、着実に成果を挙げつつある。



ハートとハートをつなげて  
支えあう地球



地球はハートでできている



ハートを重ねてひとつになれば  
「地球は愛に満ちた家になる」